



報道発表

【全国自治体初の取組】

RPAを活用した多言語による緊急情報提供システムの運用開始について

浜松市では全国の自治体で初めてRPA※というデジタル技術を活用し、正確かつ迅速に災害時等の緊急情報を日本語から多言語化するシステムを構築しました。本年9月から本格的な運用を開始しています。

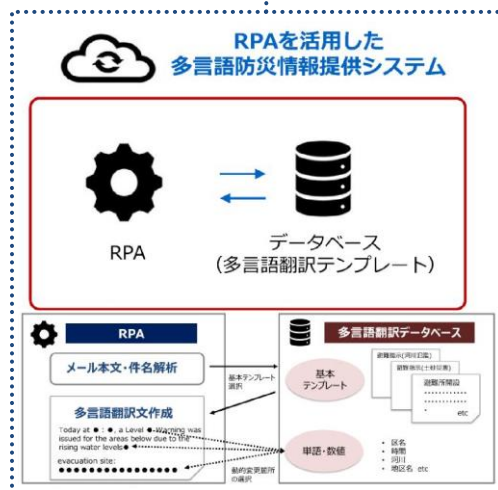
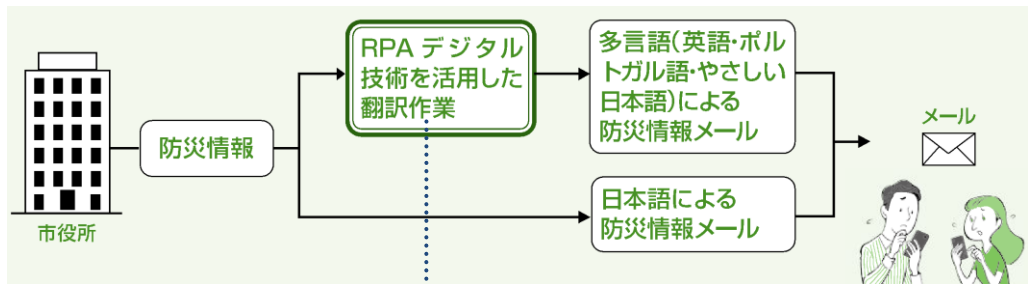
「RPA」とは・・・
「Robotic Process Automation」の略で、人間がパソコンを使って行う作業をソフトウェアに組み込まれたロボットが代行する仕組み

RPAを活用した多言語による情報提供システムの特徴

- ・災害情報に応じてデータベース上にある多言語テンプレートから自動置換を行い、多言語（英語・ポルトガル語・やさしい日本語）による正確な情報提供が可能
- ・人手による従前の翻訳と比較して時間がかからないため、情報の発信からメールが届くまでの時間が大幅に短縮

<背景・経緯>

- ・地震や大雨などによる大規模災害が増加する中、災害時などの緊急情報が得られにくい外国人住民に対する多言語による迅速な情報提供が課題であった
- ・昨年度に課題解決に向けた本格的な検討を実施し、早期の課題解決に向けたRPAを活用した新システム構築の方向性を見出すことが出来た
- ・本年3月から新システム開発に取り組み、8月の検証テストを終え、今回の運用開始に至った



本システムによる情報提供は引き続き「防災ホットメール」で配信します。現利用者の方の新たな手続きは必要ありません。

